

ウメの枝枯れ症状に注意

県西部のウメ園で著しい枝枯れ症状が多数発生しており、ウメ灰星病による症状と考えられます。被害を拡大させないためには、発病した枝の除去が重要です。

1 主に見られる症状

- ・花器を含む2年枝が著しく枯れます(図1、2)。
- ・品種により発病に差があり、‘十郎’は多く、‘南高’、‘白加賀’は比較的少ないです。

2 ウメ灰星病とは

- ・病原菌は真菌類(カビ)の一種であり、開花期の花器に感染して腐敗が始まり、枝や葉の発病に進展します。病斑部が枝を一周すると、病斑部から先端が枯死します。また、腐敗した花が果実に付着すると果実も腐敗します。
- ・前年の被害枝に形成される分生子が第一次伝染源となり、多湿の場合に伝染し易くなります。
- ・‘竜峡小梅’、‘信濃小梅’での発生も多いとされています。

3 防除対策

- ・発病して枯れた枝は伝染源となるため、見つけ次第除去してください。除去した枝は園内に放置せず、埋没等適正に処分して下さい。
- ・薬剤防除は、開花期におこないます。
- ・苗木は、感染のおそれがない清浄なものを使用してください。



図1 枝枯れの症状
(写真:JAかながわ西湘提供)



図2 花器の腐敗から進展した枝の病斑

病害虫防除部
インターネット

TEL 0463 - 58 - 0333

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>

○ 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。